

平成28年玉村町議会第3回定例会会議録第3号

平成28年9月8日（木曜日）

議事日程 第3号

平成28年9月8日（木曜日）午前9時開議

日程第 1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（14人）

2番	渡邊俊彦君	3番	石内國雄君
4番	笠原則孝君	5番	齊藤嘉和君
6番	備前島久仁子君	8番	島田榮一君
9番	町田宗宏君	10番	三友美恵子君
11番	柳沢浩一君	12番	浅見武志君
13番	石川眞男君	14番	宇津木治宣君
15番	筑井あけみ君	16番	高橋茂樹君

欠席議員（2人）

1番	月田均君	7番	川端宏和君
----	------	----	-------

説明のため出席した者

町長	角田紘二君	副町長	宮川清吾君
教育長	新井道憲君	総務課長	萩原保宏君
経営企画課長	山口隆之君	税務課長	萩原正人君
健康福祉課長	月田昌秀君	子ども育成課長	齋藤修一君
生活環境安全課長	小林賢一君	経済産業課長	大谷義久君
都市建設課長	齊藤治正君	上下水道課長	高橋雅之君
会計管理者兼会計課長	金井満隆君	学校教育課長	小板橋保君
生涯学習課長	小柴可信君		

事務局職員出席者

議会事務局長	石関清貴	議会事務局長補	齋藤善彦
庶務係兼議事調査係長	松田純一		

○開 議

午前9時開議

◇議長（高橋茂樹君） ただいまの出席議員は14名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。



○日程第1 一般質問

◇議長（高橋茂樹君） 日程第1、一般質問を行います。

昨日に引き続き、順次発言を許します。

初めに、12番浅見武志議員の発言を許します。

〔12番 浅見武志君登壇〕

◇12番（浅見武志君） おはようございます。12番浅見武志です。一般質問を始めたいと思います。

まず、1つ目の副町長就任による今後の町政運営について町長のお考えをお聞きします。8月25日に開催された玉村町議会第3回臨時会において、副町長の選任に関する議案が町長から提出され、全会一致で同意となりました。その結果、9月1日から新たに宮川清吾副町長が就任いたしました。町長は今後の町政運営について副町長にどのような役割を期待しているのか、お伺いいたします。

2つ目の質問、たまむら花火大会を観光資源として活用し、町のイメージアップにつなげる方法についてお伺いいたします。たまむら花火大会は、ことしで28回を数え、本町の夏の風物詩として、また田んぼのど真ん中で打ち上げられ、間近で見ることができる迫力ある田園夢花火として全国的にも、その地名度は定着しているところでございます。そこで、この花火大会をさらに盛り上げ、貴重な観光資源として活用することにより、町のイメージアップにつなげていくことができると私は思いますが、以下の点について町の考えをお伺いいたします。

まず1つ目、ことしの花火大会も大成功となりましたが、幾つかの問題点は残ったと思います。その課題と、それを解決するための今後の対策についてお伺いします。

2、たまむら花火大会の価値をさらに高めるために有料観覧席販売運営事業を導入する計画はあるのか、お伺いいたします。

3つ目、地元FM放送の認知度と聴取率アップを図るために、ラヂオななみを活用する計画はあるのかお伺いします。

4、花火大会は、町内外から多くの観覧者が来場しているが、さらなる集客アップを図るためには、どのような対策が必要と考えているのか、お伺いいたします。

5、本町は、来年8月に町制施行60周年記念を迎えるが、その記念事業として花火大会で何か特別な企画を考えているのかお伺いいたします。

6、花火大会は、再来年の平成30年には30回目となり、大きな節目を迎えますが、その記念事業として何か特別な企画を考えているのかお伺いたします。

以上で1回目の質問とします。

◇議長（高橋茂樹君） 町長。

〔町長 角田紘二君登壇〕

◇町長（角田紘二君） おはようございます。早速浅見武志議員のご質問にお答えいたします。

副町長就任による今後の町政運営について町長の考えを問うということですが、初めに去る8月25日の議会臨時会におきまして、議会の皆様のご同意をいただき、県から宮川清吾氏を副町長として迎えることができましたことに対して、改めて議会の皆様に感謝申し上げる次第でございます。

さて、ご承知のとおり、副町長の役割は、町長である私を補佐するとともに、私の命を受けて町行政の政策及び企画をつかさどり、職員の担任する事務を監督することです。また、私が長期に不在となったときなどには、町長である私の職務を代理し、行政を停滞させないことです。宮川副町長には、県職員時代の知識、経験、そして人脈を生かして町の抱えるさまざまな行政課題に、その手腕を発揮していただき、町の発展のため、ご尽力いただきたいと思います。特に私の公約であります財政の健全化や人口減少対策には、その実行力を大いに期待するところでございます。宮川副町長には、変化をいとわず、町の職員の先頭に立って、県央に位置する玉村町の可能性を熱意を持って開拓していただきたいと思います。

次に、たまむら花火大会を観光資源として活用し、町のイメージアップにつなげる方法について問うについてお答えします。ご承知のとおり、7月16日に田園夢花火第28回たまむら花火大会を開催しました。天候にも恵まれ、満足のいくすばらしい玉村町の田園花火大会をお見せすることができたと思います。

また、花火大会翌日は、早朝より暑い中、打ち上げ地点周辺の住民の方を初め、多くのボランティアの皆様にご協力をいただき、北部公園や打ち上げ地点周辺の清掃をしていただきました。この場をおかりして感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

まず、花火大会開催後の課題と、それを解決するための今後の対策についてお答えします。課題につきましては、毎年のご事情ですが、花火打ち上げ地点周辺の路上駐車対策が一番であると思います。昨年開催時に路上駐車をした場所へは駐車できないようにコーンを設置しましたが、ことしも数カ所路上駐車されてしまいました。来年の開催に向けコーンの設置をふやすことや、警備員による巡回警備を強化したいと思います。

次に、新規臨時駐車場の確保です。今回まで長年にわたり借用しておりました株式会社ジェムコの臨時駐車場が、来年から利用できなくなります。約500台規模の駐車場となりますと確保が厳しいのですが、周辺を調査し、早急に確保を目指したいと思います。

次に、有料観覧席販売運営事業を導入する計画があるかのご質問でございますが、先ほどご説明申し上げたとおり、駐車場確保が急務と考えておりますので、今後、安定した花火運営ができることが前提となりますが、有料観覧席販売についても導入を検討したいと考えております。なお、一部運営業務委託をしている事業者とも連携を図りながら検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、ラヂオななみを活用する計画があるかのご質問ですが、第25回大会よりプログラムに掲載して放送をお願いしています。開催前は大会日程を放送し、開催当日は実施本部の放送テント内で会場周辺のアナウンス等を生中継していただいております。事務局としましては、ラヂオ中継をしていることの周知が不足していると思っておりますので、来年度以降、さらなる周知を検討していきます。

次に、さらなる集客アップを図るためにはどのような対策が必要と考えるかのご質問ですが、当町には駅がないため、駅直通のシャトルバス運行はできませんので、やはり自家用車でお越しになる方が大半です。打ち上げ地点周辺の駐車場確保は、一番の課題であると思っております。駐車場を確保した上で、安全で安定した花火大会を運営することが集客アップにもつながるものと考えております。

次に、来年8月に町制施行60周年を迎え、その記念事業として何か特別な企画を考えているかのご質問ですが、60周年記念事業につきましては、町制施行60周年記念事業庁内ワーキンググループを立ち上げて、事業内容を検討しているところでございます。現在、具体的な内容は決まっておりますが、花火大会も60周年にふさわしい事業となるように検討していきたいと考えております。

最後に、再来年には第30回の記念事業として何か特別な企画を考えているかのご質問ですが、2年連続の記念事業となりますので、今までの実績を踏まえ検討していきたいと考えております。ただし、これらの記念事業等は、基本的には花火大会実行委員会で最終決定させていただくこととなります。今後も、この場所で継続して玉村町の田園夢花火をお見せし、町のイメージアップにつなげたいと思っておりますので、ご理解とご協力のほどをよろしくお願いいたします。

◇議長（高橋茂樹君） 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇12番（浅見武志君） 自席より質問をしたいと思います。

副町長に、まずお聞きします。今、町長の答弁を聞いて、副町長は市町村財政運営に関する知識、経験が豊富である副町長に、今玉村町が抱えているさまざまな行政課題についてどのような取り組みをしているのか、お考えがあれば聞かせていただきたいと思います。

◇議長（高橋茂樹君） 副町長。

〔副町長 宮川清吾君発言〕

◇副町長（宮川清吾君） 今の浅見議員のご質問にお答えしたいと思います。

まず、玉村町の財政状況に関する私の考えなのですが、経常収支比率が高いというのは、やはり非常に高い数字でございます。90%を超えているということは、きのうのお話もさせてもらったのですが、政策的に使える経費が少ないということですので、新たな事業を起こすときには

お金がないよということになってしまいます。これは非常に厳しい状況だなというふうに思っております。

今回の決算の経常収支比率は低くなったのですが、これも内容を分析してまいりますと、普通交付税の額がふえた、あるいは地方消費税交付金の数字が平準化したということで、分母がどちらかという外的な要因でもってふえたので率は下がったということでございますので、抜本的に政策でもって分子の経常収支比率の高止まりの数字を低くするような形にはなかなかないというのが現状だと思います。

それと加えまして、先日の町長の答弁でもあったのですが、今後の高齢化の進展あるいは公共施設の更新等を考えていきますと、かなり厳しい財政状況にあるというふうに考えております。ですので、この経常収支比率あるいは財政状況につきましては、歳出面と歳入面、両方の面でやはり見直しが今後必要かなというふうに思っておりますので、私は県のほうからこの9月1日に参りましたので、町の状況をわからない部分もありますけれども、逆に言えばしがらみもないという部分もございまして、そうしたことを踏まえまして歳出の必要な部分をカットあるいはビルドしていくというようなこと、あるいは歳入をなるべく交付金、補助金をうまく使っていくというようなことを含めてやってまいりたいなというふうに思っております。

◇議長（高橋茂樹君） 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇12番（浅見武志君） ありがとうございます。私が希望するのは、副町長は本当にお若くているのですが、担当課の課長とのめっこく接していただいて、あと事業の見直しだとか、やっぱり統合だとかも考えていかないと財政運営が厳しくなっていくと思います。玉村町に、これから毎日のように通ってくるわけですから、担当課長とよくお酒を飲んだり、いろいろと話をしたり、そういう勉強をしていただきたいと思いますが、その辺についてももう一度お願いします。

◇議長（高橋茂樹君） 副町長。

〔副町長 宮川清吾君発言〕

◇副町長（宮川清吾君） そのようにぜひさせてもらいたいと思っておりますし、私が赴任した玉村町の印象でも、非常に職員の方々が皆さん温かく迎えていただいておりますので、私からも積極的に課長さん、あるいは職員の方と交流を深めて、議会の皆様、あるいは町民の皆様ともなるべく意見交換をたくさんしていきながらやっていきたいというふうに考えております。

◇議長（高橋茂樹君） 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇12番（浅見武志君） そうですね。まだ赴任したばかりなのですが、各種イベントだとかいろいろなところに参加をして、自分の顔売りを、また自分のこれからの成果に向けて頑張っていただければと思います。

1つ、意地悪な質問なのですが、今までの副町長は玉村町に住んでおられた方がほとんどだったというか、全員玉村町在住だったのです。こういった災害だとか何かの危機管理のときに、役場に泊まり込むのもいいし、何かしてやっぱり先頭に立って危機管理の運営をしていていただきたいと思いますが、玉村町に住む予定はないですか。

◇議長（高橋茂樹君） 副町長。

〔副町長 宮川清吾君発言〕

◇副町長（宮川清吾君） 玉村町につきましては、自然が豊かで、非常に風光明媚な土地だというふうに考えております。それに産業も非常に発達していますし、アクセスも非常によく、住みやすい町なのかなというふうに思っております。多分住みよい町として売っていくということを皆さんも多分考えていらっしゃると思いますし、そういった意味では住むにはいいところだなと思っておりますが、危機管理という観点でいいますと、現在、私が住んでおりますのは伊勢崎市の北になりますけれども、1本、ミスターマックスの横を抜けて、新しい橋を通ってきますと、先日の25日の議会に伺わせてもらった際は18分で家からここまで着きました。ですので、危機管理という観点で言えば、これまで私、8月31日まで危機管理の邑楽館林の県側の次席をしていましたけれども、そのときは1時間半かかる場所におりましたので、非常に素早く危機管理の対応ができるというふうに考えております。

◇議長（高橋茂樹君） 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇12番（浅見武志君） 頑張っていたきたいと思います。

次に、今度は大谷課長のほうに質問をしたいと思いますが、駐車場整備体制について問題点が一番今回の花火大会ではあったのではないかと。先ほど町長の答弁にも、駐車の問題だとか、そういったことは雨が合ったために、ジェムコさんのところの500台が使えなかったとか、そういった管理的なものがあったと思いますが、私が考えるのに、やっぱり外部の力をもっとかりて、警備員をふやしたりとか何とかではなく、区長だとかボランティアに助けを求めているいろいろ取り組んでいかれたほうがいいのかと思うのです。

やっぱり先ほど町長も言われましたが、花火大会は最後の後片づけがあって、終わるまでが花火大会です。ことしの花火大会を見ると、本当に最後の片づけはたくさんの方が来ていただいて、小学生やら若い人なんか来て、本当に花火がよかったと言って後片づけをしていた姿を見ますと、やっぱり本当に花火に協力したいという方がたくさんいるかと思えます。余りお金をかけるのではなく、そういったボランティアの方に協力をお願いして、運行を考えていただければと思いますので、その辺について大谷課長にお聞きします。

◇議長（高橋茂樹君） 経済産業課長。

〔経済産業課長 大谷義久君発言〕

◇**経済産業課長（大谷義久君）** 駐車場警備体制等についてお答えしたいと思います。

まず、駐車場につきましては、先ほども町長のほうからお話しさせていただきましたが、ジェムコが来年から使えなくなるというようなことになっております。といたしまして、結果といたしましては、ことしも、去年も雨で使えなかったということ、その前も30台ぐらいしか入れない状態でストップしたというような状況になっておりますので、結果からすればジェムコはなくても大丈夫だったという結果にはなっているのですけれども、その結果として余裕があったかと言えば、そんなこと絶対ありませんので、何としても次の最低でも500台をさらに確保できるような方向で検討していきたいなというふうには思っております。

また、警備体制につきましては、先ほどの町長のお話にもありましたけれども、やはり違法駐車とか、そういったことがかなりありまして、とめても問題がなければまだいいかもしれないのですが、実際のところ、家に入れないというような人が周辺の地区で何軒も出ていますので、何としてもそういうところは徹底して、家に入れないようなことがないようにしていきたいなというふうに思っています。それには、やはり警備体制というのは充実が必要かなというふうに思っております。

ボランティアさんの協力というのは、もちろん必要かなというふうには思っておりますが、朝の清掃等では相当の数にいただいております。本番のところにつきましても警備員と役場の職員、それから関係団体の関係者等にも協力いただいて何とかやっているわけですけれども、そこも警備という、本格的な警備のところについては、なかなか専門家でないと難しいのですけれども、役場の職員もやっているような部分につきましては、ある程度ほかの方にも協力が得られれば、そういう方向でいきたいなというふうには思っております。

◇**議長（高橋茂樹君）** 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇**12番（浅見武志君）** 今まで平成元年から花火大会やっておりますが、消防団が警備に、各分団10個ありますが、いろいろ各署の隅に立って警備をしてもらっております。そのほかに交通指導隊、それから前はいたのですが、小学校、中学校のPTAの団体が警備をしてもらったり、パトロールをすることによって安全性を南玉でやっていたときは図っていたのですけれども、何かことはちょっと見られなかったような気もしますが、その辺にも協力はお願いしてあるのですか。

◇**議長（高橋茂樹君）** 経済産業課長。

〔経済産業課長 大谷義久君発言〕

◇**経済産業課長（大谷義久君）** PTAにつきましては、お願いしてあると思います。自主的にパトロールというような形で、どこに張りついて警備すると、そういう形ではないものですから、なかなか目にはつかないこともあるかと思いますが、玉P連全体として多分協力していただいているのだなというふうには理解しております。

◇**議長（高橋茂樹君）** 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇12番（浅見武志君） 交通指導隊の方も、何かふるさとまつりのときにも出てもらったりとか、前は花火大会のときにも大分出ていただいて、要所要所に立って人を渡していただいたりとかして、警察の方も大分出ていたと思うのですが、その辺をもうちょっと検討して、安全な花火運営ができるようにお願いをしたいと思います。

次に、2つ目の質問で、ここの花火になると、やっぱりお金だとか、そういった問題がたくさん出てくるかと思うのですが、事業費、それから協賛金が、ちょっと聞きたいのですが、平成26年、27年、28年、この3年間の事業費と協賛金を教えていただければと思うので、万単位で結構ですから、よろしくお願ひします。

◇議長（高橋茂樹君） 経済産業課長。

〔経済産業課長 大谷義久君発言〕

◇経済産業課長（大谷義久君） 3年間の事業費と協賛金ということで、ざっくりといきたいと思ひますけれども、まず事業費につきましては10万単位でよろしいでしょうか。26年度が2,140万円ぐらい、27年度が2,260万円ぐらいです。今年度については、まだ決算ができておりませんので未確定のところがありますが、おおむね2,000万円ぐらいというふうな状況になっております。

協賛金につきましては、万単位でいきたいと思ひますが、26年度の時点で、協賛金、寄附金いろいろ全部細かいのも含めてでございますが1,067万円ぐらい、それから27年度が972万円です。28年度は862万円、全て万単位で切り捨ててありますので、ご承知おきいただければと思ひます。

以上です。

◇議長（高橋茂樹君） 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇12番（浅見武志君） 事業費と協賛金の関係を見ますと、大体きのうも言われましたが、2,000万円以上事業費がかかっております。それで、これを見ると協賛金のほうが毎年100万円ぐらいずつ下がっております。そうなってくると、やっぱり協賛金が集まらないと花火運営も厳しくなる。そうすると、警備体制だとか、そういうのにもお金がかかってきて、決算書のコピーを持ってきたのですが、町からの助成金が26年が1,200万円、町の補助金です。それで、27年が1,300万円、それでことしが1,100万円です。

27年度につきましては、きのう、備前島議員からも言いましたが、工事費用というのが、電柱の移設補助というのが549万3,480円、13本の撤去、15本の新設ということで、去年上げたときには電柱でそれだけの五、六百万円もかけて、あそこのところでやろうということで2年かけて決定が決まって、上陽地区に決まった。その中で、あそこのところを整備して、これからよりいいも

のにしていってもらうためには、やっぱり前橋市だとかそういう外部、それから各種団体の力をかりなければならぬと思いますが、その辺について、大谷課長、お願いします。

◇議長（高橋茂樹君） 経済産業課長。

〔経済産業課長 大谷義久君発言〕

◇経済産業課長（大谷義久君） 確かに、その補助金だとか事業費の流れの中で、26年と27年度は記念大会ということ、26年度は広幹道開通、27年度は新天地ということで記念大会ということで、ともに1万2,000発の打ち上げを行いました。ことしは、少し落ちついて1万発というような形になりました。

それと比例して、補助金ですとか事業費のほうも動いております。27年度は、特に新しい場所ということで、少し前年の1,200万円よりも100万円高い金額で行ってございましたけれども、そんな流れになっております。協賛金の関係につきましては、多少減少傾向にあるというのは、この数字のとおりでございますので、何とか維持はしたいなというふうに考えますけれども、これだけに頼るわけにはいかないというのが、この流れにあるかなというのは確かに感じておりますので、事業費を下げる方法、あるいはそういうのを民間の力をかりる方法、寄附ももっと広範囲にいただけるような方法等々を重ねていきまして何とかしていければというふうには思っております。

◇議長（高橋茂樹君） 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇12番（浅見武志君） 事業費は大体2,000万円を超える事業費がかかってしまいます。集金事業なのですが、ことしJTBが集金に回ったと思います。ただ、今まではいろいろな絡みがあって、私どもも花火を愛する会というメンバーの中で、やっぱり知っている人が集金に行くのと、知らない人が通帳を渡して集金に行くのでは、お金の集め方が大分難しいかと思えます。その辺もある程度、今までは商工会の理事の方だとか、商工会員の方が平成元年から田口菊雄会長、それで今の商工会長の原竹雄さんが最初の花火大会の青年部長で、青年部が主催でまちおこしをどうにかしたほうがいいのではないかとということで、今の商工会長、原竹雄が花火大会をやるかと。

その当時は、平成元年ですからバブルもあって、玉村町は人口が抜群的に伸びていて、群馬県で本当に一番よかったときだと思います。井田町長もいまして、子育てするなら玉村町ということで、そういうPR事業で何かないかということで商工会青年部の今の会長の原竹雄が、「では、金を集めて花火やるべえや」と言ったら、七、八百万円の金はその当時集まって、ではどこでやるかということで地権者をお願いをしたりとか、南玉の地権者をお願いをして、あそこが第1回目が始まった経緯があります。そこから毎年毎年、協賛金が上がって、商工会主導は平成10年まで行っていたのですが、協賛金はアップしていたのです。

11年から、今度は町が主催になって、商工会が協力という形で、1個冠が大きくなった分、まだその辺までは、15年ぐらいまではお金が結構集まっていたかな。大分協賛金も集められて、花火も

にぎやかになっていて、平成10年の記念大会のときには1万5,000発を上げたり芸能人を呼んだりして、いろんなイベントを踏まえて、それから露天商なんかも呼んできたりとか、そういった形で玉村町を盛り上げてきたのが、ここへ来て大分尻つぼみになってしまったのかなと感じています。

それで、やっぱりお金を集めるためには、いろんな事業をしたほうがいいと思います。私も毎年、諏訪湖の花火、それから長岡市の花火などを見に行っておりますが、本当に町が主催ではないのです。商工会だとか、そういったボランティアの方が主催でやっていて、やっぱり有料観覧席だとか、そういった駐車場系の人も、町の人だとか警備員の方ではない方が本当に協力していただいてやっておりました。観覧席も自由席、観覧席として販売をしたり行っているのを見してきました。

ことし、ちょっと私も行ったことあるのですが、鴻巣市の花火大会が10月8日に行われるのですが、そのところが協賛席、それから有料観覧席、有料撮影席、撮影席となっているのですが、玉村町も写真を撮る方がたくさん来ていて、前のほうで脚立を並べられてだっと来てしまうと、その後ろの方が見えなくて結構トラブルがあったりしますので、やっぱりそういうのも指定をして、この間は撮影可能の場所、この間は家族で見られる場所とかというので、そういうのを特定して、町長も有料観覧席についてはなかなか興味もあるみたいですし、それから高崎市もやっております。前橋市もJTBを使って有料観覧席の販売を行っておりますから、やっぱり来年、再来年に向けてイベント事業があるので、その辺について取り組みをしてもらいたいと思うのですが、大谷君ではなかなか決定権ないので、町長にちょっとその辺はお伺いしたいと思います。

◇議長（高橋茂樹君） 町長。

〔町長 角田紘二君発言〕

◇町長（角田紘二君） 今までの花火大会のいろんなこととお話しいただいてありがとうございます。私も昨日、ご質問にありましたように、この玉村町の田園夢花火で非常にいい催し物だというふうに思っておりますし、花火をやるだけではないし、先ほど議員がご指摘ありましたように、いろんな後片づけ、あるいは当日のボランティアを含めて町の一つの行事における町民の皆様あるいは周辺の皆様のご協力の結果として、いろんなことができているということを確認しております。

ただいまの財政的なものをどうするかということでもありますけれども、いろいろ工夫をやはりこれからしていかないと長続き、あるいは発展的にできないというふうなことを確認しておりますので、今後いろんな皆様のご意見を聞きながらやっていきたいというふうに考えておりますけれども、一つは、やはり町民の皆様一律にご寄附を願っているというのは、そろそろ大変な状況になってきているのかなというふうなことも思っておりますし、またいろんな花火の中で、ことしも何か個人の記念をして、例えば誕生日だとか、あるいは結婚記念日だとか、そういうような個人の思いを込めた花火を取り上げているという、この辺がやはり個人的にも参加していただける一つのファクターかなというふうに思っております。

また、場所が玉村町ではございますけれども、前橋市、伊勢崎市とも非常に近い位置でございます

ので、玉村町の花火ではありますけれども、この近隣の市町村の、あるいは企業の皆様とどういふふうにご協力を願えるかということも今後の中で考えていく必要があるのではないかなというふうを考えております。いずれにいたしましても、この一つの大きな行事であり、町民あるいは近くの方々と交流の場であり、また玉村町をアピールする行事でありますので、今後、さらに盛り上げていけるようなふうにもやっけていきたいというふうにも思っております。

◇議長（高橋茂樹君） 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇12番（浅見武志君） ありがとうございます。ちょっとここで、鴻巣商工会青年部というものがあるのですが、この商工会青年部のほうも、玉村町の花火に研修に来ていたのです。見に来ていた。玉村町も花火大会を始めるとき、商工会の青年部の方々と商工会が主催になって、平成元年から10年までやっていたのですが、この鴻巣市の花火大会は平成14年が第1回だったのです。最初のときは3,000発、次が5,000発、8,000発、第4回では1万発、第5回からは1万2,000発で、今回で15回を迎えるのですが、この開催の名目がよくて、「燃えよ！商工会青年部！第15回こうのす花火大会」というので、もう本当にまちおこしをしないと、鴻巣市も市ではあるけれども、なかなかメインがないということで、本当に花火に取りかかって、今では玉村町は抜かれてしまって、今度こっちが玉村町から鴻巣市へ視察に行くような状況になっているものです。

だから15年で、やっぱりやる気のある人が、そういう外部の力を使って行くと、本当に花火大会も盛大になって、最初の花火大会は田園から上げる田園夢花火なんていうので、もう四方八方から見えるということで特徴を得て行っていたのですが、だんだん、だんだんマンネリ化して、努力が足りなかったのだからだんだん、だんだん下火になってきてしまったかなと思います。

それで、この鴻巣市のチケットの販売なのですが、Aブロックから5ブロックまで有料観覧席シートというのは、4名まで指定で1万4,040円、それからBブロックペアシートというのが、これは椅子は使ってはいけないのですが、ブルーシートの上にただ座るだけで7,560円、それから自由席、ブルーシートというのは1名、3,780円、それからすごいなと思ったのは、有料撮影席、そこは椅子と三脚を置いて1人5,400円という、このチケットを販売しているのが、これが全部売れてしまうのです。だから、それだけやっぱりやり方、仕方では、これだけのお金を集めて鴻巣市は花火を上げていると。

さらに、花火の最終には、尺玉300連発という、これを目玉にうたって、長岡市は最終日、三尺玉が上がったときに、最後に尺玉100連発というのが上がるのです。ことし、私、見に行ってきたのですけれども、それよりもすごい300連発というのが、やっぱりメインにして上げると。こういうふうにして他と差をつけてやっけていかないといけないかなと思うのですが、その辺について町長、町長はもう1回聞いたからいいかな。副町長にちょっと、こういうのを今度心がけて僕たちもやりたいという意気込みを聞きたいと思うのですが。

◇議長（高橋茂樹君） 副町長。

〔副町長 宮川清吾君発言〕

◇副町長（宮川清吾君） 花火大会のご質問についてお答えいたします。

まず、28年ということ、私が県庁に就職した年からです。平成元年からということ、長く続いていることについて敬意を表したいと思います。すばらしいことだというふうに考えております。

それで、課題が、今回の一般質問で私のほうも認識をいたしまして、また担当課のほうからいろいろ聞いてみたいと思いますけれども、やはりお金を払ってもらうからには、いいものでないとお金を払うということはなかなか難しいかなという部分もありますし、今までと同じでお金を払ってくれというのは、町民の方はやはり納得しない部分あるかと思えます。

それなりのよさがある、お金を払わない方からも、あそこはお金を払っているのだからというような理解も得られることは必要かなと思っておりますので、そういったことなんかも含めて、今年度から私も関係者の一人になりましたので、いろいろな課題とか、あるいはどういったものかというの、今、議員のほうからも鴻巣市の話がありましたけれども、そういったものも踏まえながら、今後いろいろ検討を私としても皆さんと一緒にしていきたいなというふうに考えております。

◇議長（高橋茂樹君） 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇12番（浅見武志君） 今は有料観覧席なのですが、もう一つやっているのが、これは協賛金です。協賛金席というのがありまして、協賛をしてくれた人に、やっぱり金額に応じて協賛席を用意すると。席を用意するのでは、だけれども本当に簡単なブルーシートで区切りがあって、そこを仕切って、入り口があって出入りが自由だというような、視察に行ってもらえればわかると思うのですが、ディズニーランドと同じで手のところをバンドを巻いて、光を当てると出たり入ったりができる。光る判こが押してあるのです。その判こが押してあると、出たり入ったりができたりとかという、そういう席なのですが、そこは1万円で4名、2万円で6名、3万円で10名、5万円で15名というブルーシートを与えるだけで、そこは自分で座布団持って行って座るのです。そうでないと、椅子で座ってしまうと、前のほうに座られてしまうので、やっぱり上陽地区のところも周りのところに畑、田んぼだとかありますけれども、本当に地権者とよく相談をして、ちょっと観覧席に提供してもらえるところだとか、そういうのも踏まえて勉強をしていただいて、それで申し込みが集まってお金が、これは商工会青年部でやるやつなのです。

商工会青年部で売り残ったものを今度は観光会社のJTBが売ります。要するに旅行会社が協賛をして、観光を目玉とする、そういうJTBだとか、近畿日本ツーリストですか、ああいうところが協賛に入って、その売り残ったところを売却していくという形で行っております。そこが、今目玉になってきて、関東圏ではもう一番すごい花火になってしまったのです。だからそこも頭に入れておいてもらって、10月8日ですから、ぜひとも町長、副町長、担当課長には行っていただければと思う

ので、もし時間が合えば見に行っていただけだと思います。

次に、4番目のラヂオななみを今まで何か放送で使っていると言われましたが、これもちょっと私のPRになってしまうのですが、平成9年、10年が私が青年部長だったのです。何かもう10回目、9回目になってくるとイベント事もなくなってきて、やることもなくなってきて、盛り上げてやるのに何がいいかということで、FMぐんまを100万円で協賛しまして、100万円払ってFMぐんまの2時間放送を買いました。それでPRをしてもらったりとかして、FMを聞いていると、音響施設が要らないのです。ラジオをみんな持ってきていただけるので、その運営状況とか主催者の挨拶だとか、そういうのも全部流して、臨場感のある放送がスピーカーなんかを用意するとえらいお金かかるのですけれども、FMとコラボして、本当にそのときはうそを言えば10万人ぐらい来たような話をラジオではしまして、またラジオを聞きながら、車の中からちょっと離れたところでも見られるということで、FMラジオをうんとPRしてやりました。

それで、そのときに、平成9年のときに来た人がユースケ・サンタマリア、私、踊る大捜査線で平成10年にブレイクしたユースケ・サンタマリアと2時間放送したのです。やっぱりその人、次の年に玉村町へ来たおかげだといって大分ブレイクして、今、芸能人でやっております。

次の年の10年目は、何かリンリン・ランランというインドみたいな人の双子の姉妹が来て放送しました。平成10年のときには、本当に玉村町で一番大きく花火大会が行われたときであります。また、その後、いろいろ移行したりとかしながら努力しているのですけれども、イベント、イベントだけでやるだけで、だんだん、だんだんほかがまねしてきてしまって、大分抜かれてしまったのですが、やっぱり防災の観点だとかそういった形で、地元のFMをうんと利用して聴取率アップ、それから地名度をアップして、ともに栄えていかなければならないと思うのですが、その辺について大谷課長、お願いします。

◇議長（高橋茂樹君） 経済産業課長。

〔経済産業課長 大谷義久君発言〕

◇経済産業課長（大谷義久君） 確かにせっかくある地元のFMですので、活用しない手はないなということでございます。先ほど町長から答弁させていただいたように、実際には行っていましたということでございます。このチラシの中にも花火大会情報配信中ラヂオななみという、そういうマークが入っているのですけれども、配信中だけで放送しているという認識が持てるかどうかというのはちょっと弱いところかなというちょっと反省点があります。先ほどの答弁の中にもありましたけれども、PRが足りなかったかなというようなところもありますので、これはもうことし、実際にはななみさんが本部席にずっといまして、そこから情報は出していたということですので、それ自体の充実もありますし、そのPR、事前に、このチラシを見てラジオを持参した人が何人いたかということを見ると、多分そんなにいなかったのではないかなというような気もしておりますので、事前周知というのをもっと徹底していきたいなというふうに思います。

◇議長（高橋茂樹君） 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇12番（浅見武志君） では、6番目の観光客の集客アップについて、JTBさんは、ことし集金事業をしていただいたのですが、やっぱりツアーも組めるのではないかなと思うのです。玉村町で花火を見て、伊香保に泊まって、次の日、富岡製糸を見るだとか、そういったような形のツアーも組んだりとか、近畿日本ツーリストの、この人は川越さんという方かな、この間お会いしたのですけれども、やっぱりそういう人だとか、あとはJTBの鈴木さんかな、ちょっとお話しさせてもらったことがあるのですけれども、やっぱりそういう民間の力を会議の中に入れて、そういうものが、向こうは商売としてやるわけですから、別に玉村町の負担はないのだから、どんどんそういう人も参加させて、いろいろと花火大会を盛り上げていってもらいたいと思います。やっぱりお金集めから運営に関して、いろいろな中で本当に外部の力をたくさん利用して、もっと来年、再来年に向けて頑張っていっていただきたいと思いますが、その辺について町長、お願いいたします。

◇議長（高橋茂樹君） 町長。

〔町長 角田紘二君発言〕

◇町長（角田紘二君） 有料席とかツアー、非常にこれからの方向を示唆するご発言だと思って聞いておりましたけれども、やはり玉村町だけで考えても、なかなかいい案が出ないし、限界があると思いますので、ただいまの議員のご意見を伺ったように、いろんな専門家の知識あるいは経験等を生かして、これから考えていきたいというふうに思っております。

玉村町の特徴として、たまむらの花火の特徴としては、やはり先ほど来言っておりますように、田園のところでも間近な花火を経験できるということもありますし、時期的にも非常に夏の始まりということで、これから夏が来るということで、どこよりも早い時期に群馬県ではやるということで、そういうようなことから特徴をいろいろアピールできる点があるのではないかとこのように思っております。

先ほど来、いろんなところでラジオの利用あるいはほかの観光地との併用等を考えて、これからますます花火を盛んにしていくように努力していきたいというふうに思っております。

◇議長（高橋茂樹君） 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇12番（浅見武志君） 9月15日、今度、多分花火大会の反省会がございます。その席に多分副町長もメンバーに上がっていたと思います。そこでやっぱり今まで花火大会をやるときは、最初の8年間は副町長が実行委員長になってやっておりました。次の年は、副町長が5月の就任だったので、4月の時点で商工会の原丈一さんが実行委員長となって何年か行っていました。副町長が実行委員長になれる可能性がうんと高いかなと私は踏んでいるのですが、そうなったことを考えて、町制施行60周年記念大会、たまむら花火大会30周年といろいろなことがあると思います。その辺について、9月

15日に出席をして、いろんな方々の意見を取りまとめして、まとめていていただきたいと思いますが、その辺について最後、副町長をお願いします。

◇議長（高橋茂樹君） 副町長。

〔副町長 宮川清吾君発言〕

◇副町長（宮川清吾君） 9月15日の反省会、ぜひ出席をさせていただきまして、先ほども申し上げたのですけれども、いいところと課題と両方多分あるかと思っております。私も昨日、お答えさせてもらいましたけれども、多分10回は行ってないと思いますが、結構な数を家族とともに見させてもらっております。とてもすばらしいものだと思っております。ただ、先ほどの話以来、財源の話もありますし、やはりいいものではありませんけれども、お金をどんどん使ってもいいというものでもないという観点もありますし、あるいは見ていただける方に、やはりお金を払ってもらった方にはいいメリットがあるよと。そうではない方には、少し離れたところとか、いろいろとそういった観点もあるかと思っておりますので、そういったものを踏まえてやっていきたいと思っております。

また、町制施行60周年ということで、あるいは再来年の30回目ですか、記念の行事が続くということでございます。議員の皆様のご意見等も踏まえて、私も関係者として意見を言わせてもらいながら、また考えていきたいなど。邑楽館林振興局時代にも、麵一1グランプリですとか、あるいは北関東3県うまいもの合戦とか、そういった行事をやってきておりまして、例えばですけれども、東武との関係とかいろいろな事業をやってまいりましたので、いろんなことを自分としてアイデアとしても出していきながら、実行できるものについては実行に結びつけたいなというふうに思っております。

◇議長（高橋茂樹君） 12番浅見武志議員。

〔12番 浅見武志君発言〕

◇12番（浅見武志君） 最後となりましたが、紹介だけなのですが、県が出しているクリアファイルなのですが、伊勢崎市の土木事務所が出しているクリアファイルなのですが、伊勢崎市をうたっている一番のメインは、世界遺産の田島旧家です。玉村町のところ、これ玉村町と伊勢崎市のクリアファイルなのですが、下に浮かんでいるところは、玉村町はやっぱり田園夢花火をファイルに載せて、これをやっぱり県もPRしております。玉村町の花火大会がますます発展することを祈念いたしまして、一般質問を終了いたします。ありがとうございました。

◇議長（高橋茂樹君） 休憩します。次は10時10分に再開いたします。

午前9時52分休憩

午前10時10分再開

◇議長（高橋茂樹君） 再開します。

◇議長（高橋茂樹君） 次に、9番町田宗宏議員の発言を許します。

〔9番 町田宗宏君登壇〕

◇9番（町田宗宏君） 皆さん、こんにちは。9番の町田宗宏でございます。傍聴人の皆様には、雨の中を、足元の悪い中をお出かけくださりまして、まことにありがとうございます。傍聴人の方がおられますと、非常にやる気が起こるのです。それで、しっかり質問をしなければと、そういう勇気が湧いてきますので、心から感謝をしているところでございます。

宮川副町長さんには、県職を辞職しまして玉村町の発展のために頑張りたいと、こういうことで玉村町の副町長になってくださいました。一番期待をしておりますのは、県職であった時代の人脈、これを生かして県との調整をしっかりやっていただいて、玉村町を消滅する可能性のある町から救っていただきたいと。救世主あるいは町を救う主と、そんな感じで命がけで頑張っていたいただきたいと思えます。大いに期待をしているところでございます。

さきの参議院議員選挙におきましては、自民党と公明党、いわゆる与党、それに若干の賛成する党の議席が参議院の3分の2以上の数に上りました。そのことによりまして、憲法改正の手続をする体制が整ったと、こういうことでございます。うまくいけば日本人による日本国の憲法がつけられるかもしれません。そのことは、私が防衛大学校の学生当時からの念願でございまして、60年来の悲願であると、そう私は思っているわけでございます。大いにすばらしい憲法をつくっていただきたいと期待をしているところでございます。

前言はそれぐらいにしまして、本論に移ります。私の今回の質問は1つです。平成29年度の予算編成についてでございます。平成28年度の予算編成は、角田町長が町長に就任したのが2月1日ですから、予算編成の期間というのは極めて少なかったわけです。したがって、町長選挙の際に町民の皆さんと約束をしました選挙の公約は、ほとんど実現をすることができなかつたと、このように思います。

しかしながら、今度の、来年度、平成29年度の予算編成は、既に角田町長が町長になって半年以上過ぎました。また、予算編成の準備期間も十分でございますので、選挙中に町民の皆さんと約束した選挙公約を十分に実現をすることができる、そういう予算編成であると。いわば角田町長が町長になって初めての予算編成だと、このように言ってよいのではないかと思います。ぜひ平成29年度の予算は、選挙公約を十分に実現させて、町民の期待に応えていただきたいと、このように思っております。具体的にどのような施策を重点施策として予算編成をするかについて伺います。

1つは、町の人口減少を食い止め、玉村町を消滅の可能性のある町から脱却をさせる。そのための重点施策。

もう一つは、玉村町の財政健全化のための重点施策でございます。よろしく願いいたします。

◇議長（高橋茂樹君） 町長。

〔町長 角田紘二君登壇〕

◇町長（角田紘二君） 町田議員のご質問に答弁したいと思います。

先ほどの質問でございますが、町の人口減少を食い止め、消滅の可能性のある町から脱却させるための重点施策についてということでございます。平成29年度は、玉村町の人口減少に歯どめをかけ、移住を促すための施策が非常に重要となってくる年度であります。また、町制施行60周年の記念すべき年度でもありますので、予算編成に当たりましては、そこに重点を置いたものになると考えています。具体的には、まず私の選挙公約となりますが、若い世代が安心して働けるための子育て支援として、小学生の給食費の半額を補助するための予算を計上させていただき、あわせてファミリー層の転入につなげたいと考えています。

次に、玉村町版生涯活躍のまちづくりですが、現在、構想を策定しているところでございます。来年度は、事業計画策定段階と位置づけ、本町にふさわしい生涯活躍のまちの実現に向け事業計画を策定いたします。事業手法、連携する民間事業者や大学等との役割分担などを固め、事業実現に向けたロードマップをつくるための経費を計上させていただきたいと思っております。

続きまして、大学との連携事業です。玉村町は、群馬県立女子大学、上武大学と連携協定を締結していますので、相互の連携をさらに強化するための事業を実施し、地域づくりに役立てたいと考えています。そのほかにも本町の周辺には多くの大学があります。大学に囲まれた町としての立地を生かし、教育レベルの高いまちづくりを行うことで若い人たちの移住を促すことができます。そのための関連予算を計上させていただきたいと思っております。

また、既に実施している文化センター周辺の定住促進事業については、29年度より分譲が始まりますが、行政としてのPRやコミュニティーの形成を支援し、移住しやすい環境づくりに努めることが肝要と考えております。29年度は、町制施行60周年の節目の年ということで、現在、各課から係長以上の職員1名を選出し、60周年記念事業のワーキンググループを構成しています。本町の活性化並びに人口減少対策につながる記念事業について検討しております。具体的な内容が決まれば予算計上したいと思います。

以上、平成29年度の人口減少対策に関連した重点施策とさせていただきます。

次に、平成29年度の予算編成における財政健全化のための重点施策についてのご質問にお答えさせていただきます。本町における財政状況は、平成27年度決算では経常収支比率は92.8%、前年度比で4.0ポイント下降しております。また、財政力指数は、昨年と同様で0.76、公債費負担比率は10.1%と前年度比で0.6ポイント下回り低率を維持し、数値としては改善の傾向にありますが、経常収支比率は依然として高率を示しており、財政構造においては硬直化の状況にあります。

平成29年度の予算編成に当たりましては、限られた財源を効率的に活用するとともに、将来にわたって持続可能な財政運営に取り組めるよう進めてまいります。予算編成における財政健全化のための重要な施策としては、徹底したコストの削減が必要であると考えております。厳しい財政状況の中、

持続可能な財政運営を実現し、また町民の理解と信頼を得るためには職員一人一人がコスト意識を持ち、効率的かつ効果的な行政運営に取り組み、コスト削減を図ることが重要であります。

町の財源は、町民からの貴重な税金であることを認識し、無駄を排除することが財政運営上からも町民理解の確保の観点からも特に重要であると考えます。また、事務事業の効率化によりコスト削減を図るとともに、事業の必要性を見きわめ、効果の低い事業や時代の変化に伴い、役割が終了したと考えられる既存事業のスクラップを行い、新たな行政需要に対応していくことが必要であります。さらに、事業の必要性、緊急性、事業効果、優先順位等を検討し、事業実施の財源を確保するため、既存事業の廃止や縮小、先送り等についても検討することが必要と考えます。

先日の柳沢議員さんのご質問にお答えさせていただいたとおり、本年度は予算における事業を基本とした事務事業の見直しを進めているところでございます。さきにご説明した財政健全化の重要な施策を踏まえ、事務事業の見直し結果については、事務事業の改善と平成29年度の予算編成へ反映させてまいりたいと考えております。

以上です。

◇議長（高橋茂樹君） 9番町田宗宏議員。

〔9番 町田宗宏君発言〕

◇9番（町田宗宏君） これからは本席から質問を行わせていただきます。

まず最初の……

◇議長（高橋茂樹君） マイク立ててください。

◇9番（町田宗宏君） まず最初の町の人口減少を食いとめて、玉村町を消滅の可能性のある町から脱却させる重点施策、ただいま町長から小学校の給食費の半額あるいは生涯活躍のまちづくり、大学との連携の強化、あるいは教育レベルの高いまちづくり、文化センター周辺の住宅地の整備・売却、こういった問題、あるいは町の記念行事などについて懇切丁寧な回答がありましたが、私はこのことを予算に組み込んで実行すれば、玉村町の町民はかなり角田町長やるなど、そういうぐあいに思われるのではないかと思います。それに加えて若干私の考えていることを申し述べてみたいと思います。

まず、消滅の可能性ある町から脱却させるための一番重要なことは、玉村町をPRすることではないかと思うのです。東京都民に群馬県佐波郡玉村町、どこにあるかご存じですかと聞いてみてください。99%は知りません。知らないと思います。うそだと思ったらアンケートとってみたらいいです。群馬県出身の人はわかると思うのですけれども、群馬県出身の都民というのが1割もおりませんからね、都民の中に。それを考えればわかります。ほとんどの人が玉村町を知らない。したがって、東京都民に対して玉村町をPRするということです。

例えば、玉村町は住宅地として最適な町です。平たんで清冽な、きれいな水が流れる、空気のおいしい、緑豊かな田園住宅地です。土地が安い。家を建てるといったって、3,000万円もあれば建てられてしまうのだから。東京で一戸建ての3DKのうちを買ってみなさい。1億円してしまう

のですよ、東京都内、世田谷でも。うちの娘は住んでいますけれども、1億かかるのです。玉村町だったら3,000万円でできてしまう。もう3分の1です。土地が安い。

それから、災害が少ない。風水害あるいは地震、あるいは原子力発電所が爆発したときの被害、極めて少ないと思います。福島第一原子力発電所あるいは柏崎の原子力発電所、こういうところが爆発しても、玉村町はそんなに大きな被害はないはずですよ。そういう住宅地として最も適した町ですよ。

次は、働き場所が周りにたくさんありますよ。前橋市、高崎市、伊勢崎市、そこへ働きに行けばいいですよ。歩いたって行けますよ。自転車だってすぐ行けますよ。10分もすれば、その工業地帯へ行ってしまうのですから。伊勢崎市の58ヘクタールの工業団地できましたね。もうビルが建っています。あるいは、高崎、関越道の道からすぐ工業地帯ができます。64ヘクタールですか、もう工事が始まっています。あるいは、前橋市はパワーモール一帯ですよ。すごいですよ、あの商業地帯というのは働き場所がいっぱいあります。玉村町なんかも相当あそこへ働きに行っています。そういう働き場所は、玉村町はそんなに多くはない。しかしながら、周辺にそういうところがいっぱいあると。だから働き場所は、心配はありませんよ。

あるいは、交通が極めて便利ですよ。関越自動車道、国道354号線ができました。高崎玉村スマートインターがあります。できました。あるいは、都内までは約100キロです。東京都まで、わずか100キロ。新幹線で行けば通勤もできますし、通学もできますよ。大きな会社は、東京に本社がある会社は、東京に住んでもらって住宅手当を払うよりも、新幹線通勤をしてもらったほうがいいのだそうです。そういうことを読みましたけれども、もうそういうことでいけば、この玉村町は東京都への通勤通学ができると。

しかも、新幹線に乗りますと、約1時間ぐらいかかるわけですね、45分ぐらいですか。その間、本が読めると、あるいはラジオも聞けると非常に勉強になるのです。だから極めて交通の便利な町ですよ。

あるいは、子育てしやすい町ですよ。小学校区ごとに児童館がある、保育所がある、そんな町というのは全国見たってほとんどないと思います。あるいは、幼稚園もある。そのほかに、さらにいろいろな私立の施設がありますよ。フェリーチェだとかマーガレット幼稚園とかもあるわけですよ。

さらにいいのは、町民は大変心が温かいと。こんな町は全国にないぐらい。挨拶だってよくされていますよね。おはようございます、こんにちは、お元気ですか、やられています。あるいは、思いやりがあります、体大丈夫ですか。そういうすばらしい町なのです。私に言わせると、世界一住みよい町ではないかと。このことをぜひPRしてもらいたいのですよ。

しかも、パンフレットとかポスターをつくらなければ東京へ持って行ってPRできませんから、つくるのは博報堂ですよとか、電通とか、東京に専門の会社があります。そういうところに頼んでつってもらおう。パンフレットは東京へ持って行って配るようにする。そこの道の駅で幾らやったら、そんな玉村町の人口を食いとめることの役には一つもならないのですよね、東京都の住民を玉村町に

呼んでこなければならぬのだから。だから山手線の中にポスターを張るとか、あるいは東京23区の区役所へ持って行ってやってもらうとか、あるいは宮川副町長の本家本元である県の施設であるぐんまちゃん家、あそこにいっぱい持って行って、これが玉村町だと。あるいは、状況によっては東京の駅へ出向いて行ってパンフレットを配る。そういうこともやってもいいのではないかと思うのです。

いずれにしても玉村町はこんなすばらしい町なのだとすることを都民にPRをすべきだと思います。それがためには、1億円や2億円かけたっていいのです。その結果、100人、200人が玉村へ来たら、1億円や2億円すぐ挽回できますから。そのように考えていますが、これについてどうお考えですか。

◇議長（高橋茂樹君） 町長。

〔町長 角田紘二君発言〕

◇町長（角田紘二君） 今、玉村町のすばらしいところを列挙していただきました。私も同感でございます。具体的に何をすべきかということでありますけれども、やはり玉村町がどういう町であるか、あるいは何をやろうとしているのかというようなことを皆さんに知っていただくという、簡単に言えばPRが不足しているのではないかというふうに思っております。

過日、東京の銀座にあるわけですがけれども、ぐんまちゃん家を訪ねてびっくりしましたけれども、行きましたら千代田町ののぼりがいっぱい掲げられておりました。これはぐんまちゃん家でしたか、県のPRの本拠地でありますけれども、ここへ行きましたも中に千代田町のいろんな風景、あるいは物産等が置いてありまして、非常に私自身、千代田町という町自体の、どこに、どれだけの人口で、どういうものをつくっているのかというのは、まことに申しわけなかったのですけれども、わからなかったというのが実情でありますけれども、東京の銀座でそれをPRしていました。

それを館長さんに聞きましたら、千代田町は1年間職員を1人、このぐんまちゃん家に派遣して、そして千代田町のPRに努めているというようなことであります。いかに町を都民の方に知っていただくか、あるいは本当にそれをもとに町の発展、あるいは人口をふやすかというようなことをどういうふうに考えて実行に移しているかというのを目の前に見せていただいたというようなことであります。

やはり県も本腰を入れて群馬のいろんなものをPRしてくれるようなシステムをつくってありますので、今後、それをうまく利用して、そして玉村町も積極的に行わない限り、玉村町がどこにあり、何をPRするのかというのが知られていかないのではないかというふうに思っております。幸いにいろんな交通の便、あるいは自然が残っていたり、子育て、その他大学教育も含めていろいろな面で恵まれているものがいっぱいあるわけでございますので、それをしっかりとPRし、そして方向を定めて実行に移していくということが大切な役割、やるべきことではないかというふうに思っております。

◇議長（高橋茂樹君） 9番町田宗宏議員。

〔9番 町田宗宏君発言〕

◇9番（町田宗宏君） 大変すばらしい回答をいただきまして、うれしい限りです。それで、ぜひこれは規模の大小は問わず、東京都民に玉村町のすばらしいところをPRしてもらいたいと思います。そのように玉村町はすばらしい町ですから、副町長にはよく玉村町を知っていただいて、それでは玉村町に住むかということで住んでもらえれば、ご家族含めて何人か玉村町の人口がふえるわけですから期待をしています。

次に、教育レベルの高いまちづくりは、町長さんも答弁で既にやられたわけですが、私が一番期待しておりますのは、県立女子大の拡充の問題なのです。もう私が議員になった直後ぐらいからこの話はしているのですが、全然動かなかったのです。これこそ宮川副町長に期待するところが大きなのです。県立女子大を男女共学の学校にすると。女だけではだめだ。女だけではだめだという差別だと言われるかもしれませんが、やはり男も一緒にやると。しかも、文化系だけではなくて、理工学部あるいは農学部、そういった技術を要するような学部をつくる。そして、そこに玉村高校は県立大学の附属高校にすると。あと玉村町の中学、小学校、幼稚園ありますけれども、その一部を附属の学校にしてしまうと。そうすると、あれ玉村町はちっぽけな町に、何だ、総合大学のような学校があつて、しかも高等学校から中・小学校、幼稚園まで附属学校までであると。すごい町なのだな。それ一つで、玉村町というのは教育にいい町なのだなと思う人がたくさん出てくると思うのです。ぜひこれを実現させるように県のほうに働きかけてもらいたいのです。宮川副町長さん、どうですか。

◇議長（高橋茂樹君） 副町長。

〔副町長 宮川清吾君発言〕

◇副町長（宮川清吾君） 今の県立女子大のお話ですけれども、町の中に非常にレベルの高いすばらしい大学があるということで、県内でもこれはすばらしいことだというふうに思っております。私が8月までおりました邑楽館林地域も、東洋大学が板倉町にございまして、その連携を県あるいは周辺の自治体と非常に熱心にやっておりました。大学が活性化しますと、その大学に行きたいという子供さんたちもふえますし、そうすると人口もそこに定着をしていくというような効果もございます。あるいは、この地域に、こんなすばらしい大学があるので、この地域に住んでみたいという方も出てくるでしょうから、非常に効果的なことだというふうに考えております。

ここの女子大を共学化あるいは学部をふやしていきたい、あるいは附属高校等の話については、これは県の話でもございますので、今後、私も研究というか、勉強してまいりたいというふうに考えております。

◇議長（高橋茂樹君） 9番町田宗宏議員。

〔9番 町田宗宏君発言〕

◇9番（町田宗宏君） この小さい町が消滅しないで生き残るためには、町の財政、お金だけでうまくやろうといったって、そうはいかないのです。やっぱり小さい町が生き残るためには、周辺の大きな市町村との連携、あるいは玉村町よりも上位にある県ですとか、その上にある国、そういうところ

の力を利用すると。それがなかったら、玉村町は消滅してしまうと思うのです。ぜひ大学との連携の強化とともに、県立女子大の拡充についても努力をしていただきたいと思います。

次、保育所について、認定こども園に何でしないのか、それについてお聞きします、子ども育成課長さん。

◇議長（高橋茂樹君） 子ども育成課長。

〔子ども育成課長 齋藤修一君発言〕

◇子ども育成課長（齋藤修一君） 認定こども園につきましては、幼稚園の機能と……

◇議長（高橋茂樹君） 9番町田宗宏議員、座ってください。

◇子ども育成課長（齋藤修一君） 機能を備えた施設になりますので、幼稚園を管理いたします学校教育課のほうとの協議が必要になってきますので、今後よく検討を進めていきたいというふうに考えております。

〔「では、幼稚園を何で認定こども園にしないのですか」
の声あり〕

◇議長（高橋茂樹君） 9番町田宗宏議員、座ってください。

〔「ごめん、ごめん」の声あり〕

◇議長（高橋茂樹君） 学校教育課長。

〔学校教育課長 小坂橋 保君発言〕

◇学校教育課長（小坂橋 保君） 昨日の石内議員さんの質問にもお答えしたのですが、幼稚園につきましては年々子供の数が減ってございます。ただ、玉村町といたしましては、幼稚園教育を貴重なものと、重要なものと考えておりますので、数は減っておりますけれども、幼稚園を維持しているという状況でございます。ただ、このままいきますと、この後も子供の数が減っていくというのは見えますので、子ども育成課長のほうから答弁がありましたとおり、今後、協議をして行っていきたいと考えております。

◇議長（高橋茂樹君） 9番町田宗宏議員。

〔9番 町田宗宏君発言〕

◇9番（町田宗宏君） 認定こども園と保育所、あるいは幼稚園の違いは、皆さん、ご存じだと思うのです。要するに認定こども園というのは、いろんな形態がありますけれども、保育所と幼稚園のいいところを兼ね備えた子供を育てる組織体なのだよ。だから保育所は、来た子供たちを遊ばせておけばいい。幼稚園は、教育をします。その両方を兼ね備えれば、お母さん方にとっては最高の自分の子供を育てる場所になると。これは間違いないのです。

そんなことはみんな知っているのだと思うけれども、それについてことしの6月19日の上毛新聞を見ると、認定こども園大幅増と書いてある。県下で113カ所になった。前年度同期は68カ所しかなかったのです。大体倍増しているのです。どんどんつくっていく。私は、それが当たり前だと思

うのです。本当は幼稚園に預けたいと。だけれども、お母さんは8時間働いていると。だから幼稚園に預けられないのです。子供のときから勉強させたい。三つ子の魂百までもというでしょう。教育は早いほどいいはずなの。だからアンケートとってみてください。幼稚園に通っているお子さんを持っているお母さん方に、こども園にして8時間なら8時間預けるのがいいのですか、このまま幼稚園のまま午前中だけ預けるのがいいですか。そういうのを聞いて回ったらいいのだ。あるいは、保育所に通っているお子さんを持っているお母さん方に、保育所でしっかりした勉強も教えるほうがいいですか。今のように教えない。ただ来た人に遊ばせておくと、それがいいのですかと、そういうのを調べてもらいたいのだ。それで、そんなにお金は変わらないと思いますよ、こども園にしても、保育所のままで置いても、幼稚園のまま置いても。だからそういう子供を持っているお母さん方にアンケートをとってみて、それで、その結果に基づいて私はこども園をつくるのならつくと、そういう行動を起こしてもらいたいと思いますが、どうですか。

◇議長（高橋茂樹君） 子ども育成課長。

〔子ども育成課長 齋藤修一君発言〕

◇子ども育成課長（齋藤修一君） 平成26年度に玉村町の子ども・子育て事業計画という計画をつくっておりますけれども、その前段階のときにアンケート調査を行っております。その中でどんな施設を利用したいかということで、認定こども園という項目もありましたが、その際にも何件かそういう認定こども園、まだそんなに認知はされておりましたが、利用したいという意見はございました。

◇議長（高橋茂樹君） 学校教育課長。

〔学校教育課長 小坂橋 保君発言〕

◇学校教育課長（小坂橋 保君） 先ほどの答弁とちょっと同じ形になるかと思うのですが、確かに幼稚園の子供は減ってございます。ただ、玉村町内においては、マーガレットさんが来年から認定こども園ですか、それからフェリーチェさんが既にもう認定こども園になってございます。その関係において、玉村町公立で認定こども園を設定したほうがいいのかどうかと、その辺もありますので、議員さんのおっしゃるとおり、よくこれから検討して、協議を重ねて、玉村町に合うものをつくっていきたいと考えております。

◇議長（高橋茂樹君） 9番町田宗宏議員。

〔9番 町田宗宏君発言〕

◇9番（町田宗宏君） このほかに、まだいろいろ保育レベルの高いまちづくりのためにぜひ検討してもらいたいと思っていることがあります。1つは、全国の学力テスト、体力テスト、これについて日本一を目指すということです。放課後の時間を活用する。あるいは、夏休みですとか冬休み、そういう長期の休暇の時間を活用して、補習授業等をやって、学力、体力ともに日本一を目指す。あるいは、周辺市の高校に通学するための公共交通の設定。高等学校に通うと云って、今大変なのです。

特に中高一貫学校がありますね、中央中等教育学校ですか。あるいは伊勢崎市にも出来ました、四ツ葉学園ですか、そういうところに通わせるといったって大変なのです。親が送迎しなければならない。だから、そういう周辺市の高等学校、あるいは中高校の一貫校、そういうところに通学をする子供のために公共交通を設置してやる。

それから、毎回誰かが、議員がお願いをしている3学期制への移行、これは群馬県下で1つしか残っていないというのは異常な町なのですよね、私に言わせれば。何でそうなのだと。みんな3学期制にするにしろ、2学期制のままにしておくにしろ、子供の教育のためを思っているのですよ、教育長。3学期制にしたら子供のことを思っていないなんて思われては、私も非常に不本意なのですが、そういう学期制などについては県下で1つしか残っているのではなくて、もう全県同一の学期制にしたらいいではないかと、このように思っておりますが、ぜひ検討をしてもらいたいと思います。

それから、高齢者に優しい町というのは非常に重要なのです。私、1週間に2回、時間があればグラウンドゴルフに行っているのですけれども、東京から来られた高齢者の方がおられて、女の方なのですけれども、ノイローゼになりそうだという話をしたのです。なぜかというと、買い物に行くといったって、南玉の場合には一番近いところ両水ですよ。大変なのです。東京ならちょっと歩けば駅があるから、それに乗ってデパートなり何なりあるところへ行けば、すぐ買い物ができる。非常に便利だと。それで娘にお願いして連れていってもらおうのですけれども、その待っている自分が、娘の乗せていってくれる時間が一定はしていないし、大変だと。もうここに来るのではなかったと、そういう話をされた方がいるのですけれども、ぜひたまりんの運行改善、あるいはデマンド乗り合いタクシー、そういうものを導入すると。ぜひこれをやってもらいたいと思うのです。

それから、特別養護老人ホーム、施設は若干ありますけれども、まだ待機者が何十人といっているのです。そういうのを整えて、高齢者にやさしい町にしていきたい。

それから、安全安心なまちづくりで何としてもやっていただきたいのは、小中学校の通学路の安全対策。今までもやってきましたけれども、念には念を入れて点検をして、これは危険だという場所があれば、すぐに直していただきたい。なかなか危険だというのがわかっている、今までは直してこなかったところが何か所かあるのです。いまだに直っていない。これは玉村町の人口をふやすのには物すごく悪い状態にあると思います。もしも小学生が車にひかれてみてください。何だ、あんな危ない町なんか行けないということになるのです。人口が減ってしまう。そういう事件が起こる前に、ぜひ対策を練っていただきたいと思います。小中学校の通学路の問題ですから、教育長いかがですか。

◇議長（高橋茂樹君） 教育長。

〔教育長 新井道憲君発言〕

◇教育長（新井道憲君） 通学路の問題でありますけれども、これはもう子供たちが安全に登校、下校できることが第一であります。それに向けて、また全力で尽くしていきたいというふうに考えておりますし、学校とも連携しながら、日常の安全点検をさらに進めてまいりたいというふうに考えてい

るところです。

◇議長（高橋茂樹君） 9番町田宗宏議員。

〔9番 町田宗宏君発言〕

◇9番（町田宗宏君） ぜひよろしく願います。

それから、シニアタウンの誘致について、現在、研究をしておるはずですが、構想も年度内にはできるのかなど期待しているのですが、玉村町の発展のために、このシニアタウン、玉村町の規模に合ったシニアタウンというのは構想として出てくると思うのですが、それを実現するように努力していただきたいと思います。

もう一つ、町長の最も得意とする分野で健康寿命を延ばす施策、これが最近、群馬県から「ぐんま元気（GENKI）の5か条」というのが出されました。上毛新聞にも載っておりましたから、皆さん読んだと思います。そのほかに、ことしの文藝春秋の9月号に経済学者の伊東光晴さんという方が、こんなことを書いています。北海道のある市で終末医療に目をつけ、肺炎予防注射を高齢者に100%実施をした。また、口内衛生の指導を徹底させたところ、死因の1位が老衰となった。このことによって、市の健康保険財政は黒字になった、こういうことが書かれてありました。健康寿命を延ばす施策、貫井前町長もなかなかいいことをやったのです。町民1人1スポーツ、これは大変いいことだと思うのです。ですから、それは引き続きやっていけばいいと思うのです。そのほかに、さらによい施策を町長の最も得意とする分野ですからつくって、平成29年度の予算に盛り込んでいただきたいと、このように思っております。

時間も大分少なくなってきましたから、財政健全化のための重点施策について、コストの削減、あるいは事業の見直し、そのことについて町長から懇切丁寧な回答をいただきました。ぜひそれは実行していただきたいと思います。町長が、財政について改善しなければならないと、健全化すべきだというもとの考え方は、私なりに解釈しますと、一番の問題点は経常収支比率が悪いと。92.8%、これはよくないと。100億円の予算があったとして、大体玉村町は110億円から120億円ぐらいの予算。100億円だったとした場合、92.8%は、今までやってきた事業の継続などでもう使ってしまうおうと。残りの7.2%しか自由になるお金がないのだと、これは非常に私はそのとおりだと思います。経常収支比率が悪い、これは改善しなければならない。

そのほかの指数を見ますと、実質収支比率あるいは財政力指数、あるいは公債費負担比率、あるいは実質赤字比率、連結実質赤字比率、あるいは実質公債費比率などについては、玉村町は悪くありません。いいのです。それでこの経常収支比率を改善すると。

あるいは、もう一つは、将来の財政のことを町長は考えているのだと思うのです。どういうことかと申しますと、その地方債の現在高、これは104億円あります。積立金の現在高、財政調整基金等ですが、これが27億円あるのです。差し引きしますと、将来にわたる実質的な財政負担は77億円、玉村町は借金をしていると、こういうことです。これについてはなるべくふやさないようにすると。

逆にこれを減らしていくと、そういう努力が必要なのではないかというのを町長が言っているのだと思うのです。そこで私は、次の施策をやるべきだと思うのです。

1つは、補助金、助成金、これを徹底的に見直す。貫井前町長が、3期12年間に補助金はどんどんふえていったはず。そのままずっと行ったら、補助金だけで大変な額になっていくと、こういうことです。これについては、町長、やっていただけますか。

◇議長（高橋茂樹君） 町長。

〔町長 角田紘二君発言〕

◇町長（角田紘二君） 今の財政状況の評価の仕方というのはいろいろあると思うのですけれども、やはり将来にわたって玉村町の財政を健全化できるような方法をどうしたらいいのかということが、やはり大切だろうと思います。ただ、現在の町政での施策というものをいろいろやらなくてはいけないわけでありますので、その辺のバランスが私は大変重要だろうというふうに思っております。

今回、副町長の宮川氏は、この辺のことも今までの経験とか実績の中でやっておられましたので、今後、玉村町の財政基盤というのをどういうふうに構築していったらいいかということで、いろいろ協力してもらいたいということを考えておりますが、今の玉村町の財政の中で、私なりにこの7カ月間で感じた点は、やはり先ほど議員がご指摘になりましたいろんな補助金をいただいて、それに合ったような施策をやっておるわけでありますけれども、やはりこの補助金で半額は国、あるいは4分の1は県というようなことでいろんな施策をするわけでありますけれども、これを継続的に、そして実効性のある施策としてやっていくためには、非常に大変なことも起こっているのではないかとこのように思っております。

ですから、今後、その辺の補助金とか助成金、そしてそれが町の将来にわたって有効であるかどうかということを見きわめた上で、やはり取り組まなければいけないのではないかとこのように思っております。また、実際に今いろんな補助金、あるいは町内でのいろんな事業をやっておるわけでございますけれども、これもやはり一般の住民の方も入れた上でのもう一回の見直しというのも必要だろうというふうに考えております。現在は、議員さんが言うように、経常収支比率や、あるいは財調とかの兼ね合いで今の事業を考えていくわけでありますけれども、将来にわたってそれは非常に有効であるというような事業には、やはり現在の情勢を考えながらも、今後取り入れていくというのも一つの方向であり、それを見きわめるのが私の役割であろうというふうに考えております。

◇議長（高橋茂樹君） 9番町田宗宏議員。

〔9番 町田宗宏君発言〕

◇9番（町田宗宏君） 次に、事業のスクラップ・アンド・ビルドについては答弁でありましたが、例えば町道220号線の拡幅工事について、きのう、課長さんにその計画の資料をくれと言ったら、いまだにもらっていないのですけれども、そういう町道220号線の拡幅工事ですとか、昨日、大分意見のありましたJAのじょうよう、しばねの支所の問題、あるいは役場周辺地区の公共施設の高度

利用計画の問題、この中には勤労者センターの問題もあるわけですが、これらについてはぜひ慎重に検討をしていただきたいと思います。

次に、これは宮川副町長にぜひやっていただきたいと思いますと思うのですが、県央水質浄化センターの活用です。1つは、太陽光発電を設置すること。2つ目が、汚泥や下水の再生土あるいは再生水の活用、下水処理課程で発生するCO₂あるいはH₂の活用の問題、これらについてはぜひ実現をし、その太陽光発電は野菜工場に利用するとともに、町の公共施設の電力に利用するとか、あるいは野菜工場をあそこにつくると。かなり大きなものをつくって、群馬県の玉村町にはこういうすばらしい施設があると全国に有名になるような県央水質浄化センターの活用施設をつくっていただきたい。いかがですか、副町長。

◇議長（高橋茂樹君） 副町長。

〔副町長 宮川清吾君発言〕

◇副町長（宮川清吾君） 県央水質浄化センターの活用の件で、太陽光発電から、あるいは野菜工場という話、今ありましたけれども、内容的にはそういったものができれば本当にすばらしいなというふうには思います。勉強させてもらいたいというふうに思います。

◇議長（高橋茂樹君） 9番町田宗宏議員。

〔9番 町田宗宏君発言〕

◇9番（町田宗宏君） この問題については、10月に経済建設常任委員会で九州のほうに勉強に行く予定になっております。

最後の質問でございますが、玉村町の人口減少を食いとめ、玉村町を消滅する可能性のある町から脱却させるには、県や国の支援あるいは周辺市との連携が必要であります。具体的には、今までの述べてまいりましたが、玉村町のPRの問題、県立女子大の拡充の問題、シニアタウンの誘致の問題、県央水質浄化センターの活用の問題などこれらの施策に対して県の支援を得るため、角田町長の不退職の決意と課長さんたちの協力を得た宮川副町長の活躍は必要であると思います。玉村町の創生は、角田町長と宮川副町長の双肩にかかっていると言っても過言ではないと思います。お二人の決意のほどを伺います。

◇議長（高橋茂樹君） 町長。

〔町長 角田紘二君発言〕

◇町長（角田紘二君） 大変幅広いお話を伺いまして、気持ちを新たにしているところでありますが、やはり私も町政に携わるようになりまして、何が大切かというようなことを常々考えておりますけれども、やはり志です。何のために町長になったのか、あるいは町長になって何をするかというその志を常にやはりきちっと持つておることが一番大切であろうというふうに思っております。私自身、選挙中にいろいろお約束したこともありますし、人口をふやし、財政を健全化するということが主であります、これはただいま議員さんがご指摘になったように、いろんなことがかかわり合っ

おるわけでありまして、それが相乗作用として結果的になるということでもありますけれども、ただ、やはり志をきちんと念頭に置いて、そして誠心誠意、誠実に取り組んでいくということが一番大切であろうというふうに思っております。

先日、前橋市の前橋ビジョン発表会というのに参加させていただきまして、そこで前橋市では「Where good things grow」ということで「めぶく」ということをビジョンとして掲げたというふうに聞いておりますけれども、なかなか玉村町のビジョンというのは何であるかということを考えたときに、なかなか今までの町政あるいは雑誌等におきましてははっきりしない、玉村町憲章というのがありますけれども、かなり漠然としたいろんな分野のものが掲げられております。そういうような面から、この玉村町として何をビジョンとしていくのかということをおもうわけではありますが、私といたしましては、私の志は、私が町政に携わった、まず掲げたものを一つ一つ実行していくというのが私の役目であろうというふうに考えております。

◇議長（高橋茂樹君） 副町長。

〔副町長 宮川清吾君発言〕

◇副町長（宮川清吾君） 先ほど来、町田議員のほうからは、玉村町の魅力を高めるためのさまざまな施策についてご提案があったというふうに考えております。個人的に玉村町のほうで、昨年度でしようか、つくっていただいたまち・ひと・しごと創生人口ビジョン、こういったものを細かく見せていただいております。そういった中で、玉村町につきましては社会増減あるいは自然増減という状況があるわけですが、初めて25年度に自然減になっているというふうに承知をいたしました。

また、社会増減については、比較的近年ではずっと社会減の状況が続いているということで、両面からやはりいろいろな施策が必要かなというふうに思っております。その際に、先ほど一番最初に議員のほうからお話のありました地域の魅力を発信していくという部分が非常に大事かというふうに思っております。地域の魅力をまずはみずから知ると。町民も知る、あるいは役場の職員も知るということが、やっぱり非常に重要かなと思っております。自分の魅力がわからないと外に発信できないよということになってまいりますので、そうしたツールは確かに博報堂さんですか、あるいはそういった電通さんとか得意な会社さんありますけれども、まずは職員なり町民の方が、自分の地域はこんないい地域なのだということを意識できるようなことが必要かなと思っておりますので、そういったことを念頭に置きながら、財政もそうですけれども、地域振興あるいは観光とまでいくと、ちょっとこの地域はもしかすると観光よりも地域振興という住民を住みやすくしていくという観点が多分必要かと思っておりますけれども、そういった観点を踏まえて、今年度、予算編成等に携わっていきなというふうに考えております。

◇議長（高橋茂樹君） 9番町田宗宏議員。

〔9番 町田宗宏君発言〕

◇9番（町田宗宏君） 頑張ってください。期待をしております。

なお、私、自衛隊に長く勤めたものですから、声が大きくて随分威張っているように聞こえたかもしれませんが、私の生来持っている声でございますので、その点をご容赦願います。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

◇議長（高橋茂樹君） 以上で一般質問を終了いたします。



○散 会

◇議長（高橋茂樹君） 議事の都合により、明日9月9日から9月15日までの7日間は休会いたします。

なお、9月16日午後2時30分から本会議が開催されますので、議場にご参集ください。

以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしました。

これにて散会いたします。

ご苦労さまでした。

午前11時11分散会